

時刻	次第・発言者	発言内容
14:00	<p>&lt;開会行事&gt; 進行(黒木総括)</p> <p>&lt;開会挨拶&gt; 矢野課長</p>	<p>開会の言葉</p> <p>主催者挨拶 (社会教育課長)</p>
14:10	<p>&lt;説明&gt; 社会教育課 中野</p>	<p>(1) 事務局より報告：令和7年度事業実施状況について</p>
14:35	<p>吐合委員</p> <p>中野</p> <p>吐合委員</p> <p>中野</p> <p>馬場委員</p> <p>中野</p> <p>馬場委員</p>	<p>○出張図書館(杵築)について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>出張図書館はどのような場所に行ったのか。学校か、デイサービスか。</li> <li>対象は子どもか大人か。入所者向けか通所利用者向けか。実施は日中か。</li> </ul> <p>・実施場所は居住施設及び通所施設。</p> <p>・施設名は「樹の実園」と「白萩園」。1回目が白萩園、2回目が樹の実園</p> <p>・実施は日中。昼食後のレクリエーションの時間帯。</p> <p>・対象は入所者及び通所利用者(生活介護や就労継続支援B型等)</p> <p>○ユニバーサルカレッジの時間、会場、参加者について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>土曜日と火曜日の実施時間は何時か。会場はどこか。公共交通機関で通える時間なのか。</li> <li>表にある「関係者」とは誰か。保護者は送迎のみか、講座にも参加しているのか。</li> </ul> <p>・土曜日：8時30分～12時頃。火曜日：16時30分～18時。</p> <p>・会場はさくらの杜高等支援学校。</p> <p>・参加者の交通手段は、保護者送迎、自家用車、JR・バス利用などそれぞれ。</p> <p>・「関係者」は「ヨカたの」という委託団体スタッフのこと。</p> <p>・保護者の人数については、講座と一緒に参加した人数であり、送迎のみの保護者は含まれていない。</p> <p>○ユニバーサルカレッジの土曜日講座について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「やりたいことしたりする場」とはヨカたのさんとして具体的に何を想定しているのか。相談中心か、活動もあるのか。</li> </ul> <p>・今年度は一般就労者向けの相談日として開設したが、参加は1名のみ。</p> <p>・反省と、実態を踏まえて、来年度は生活に関わる学びの場へ転換予定。 例：お金の使い方、スマホの使い方、クレジットカードの使い方、金融教育等</p> <p>○ユニバーサルカレッジについて参加しやすさに関する意見と検討点</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>3時間半もあるため、8時半開始で途中参加は可能なのかというところが難</li> </ul>

		<p>しかったのでは。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本人のみで相談参加するのは心理的ハードルが高かったのでは。</li> </ul> <p>→テーマを明確にし、参加してもらう。学びの時間を短めに設定。</p> <p>その後、希望者が残って相談できる形にし、家族も一緒に参加できる形にしていけたらいいのではないだろうか。</p> <p>○ユニバーサルカレッジに参加しやすさに関する意見</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・毎回相談対応スタッフを配置し、あわせて日替わりの活動や楽しみを設けることで、参加しやすくなるのではないか。</li> </ul> <p>→そのような体制により、保護者が会場に残りやすくなり、保護者同士のネットワークの広がりにもつながるのではないか。(大分市からの参加であるなら)</p> <p>岡田委員</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大分大学の学習講座は年間4回のみで、ユニバーサルカレッジで毎週くらいの頻度で居場所ができることは大切なこと。</li> <li>・講師やプログラムをもって出張するみたいなことをユニバーサルカレッジとの連携ということであれば、よかたのさんも講師のことなど心配せずに解決できるのではないか。来年度に向けて話をしていけると良いのではないか。</li> </ul> <p>池上委員</p> <p>○広報について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・障がい当事者との関わりを広げようと活動をしているが、実際には関わる機会が少ない現状がある。今回の報告で、公民館等の多様な講座が実施されていることを知った。イベントや講座はSNSやホームページで広報しているのか。特定施設のみか、広く周知しているのか。</li> </ul> <p>中野</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ユニバーサルカレッジはホームページや「かたろうえ大分」等で広報。参加者には個別案内も実施。</li> </ul> <p>公民館講座は各市町村に一任しており、詳細までは把握していない。</p> <p>黒川委員</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・中津の「ワンデーキャンプ」については、全事業所にメールで流したところ、その中で手を挙げたところが「こまどカレッジ」だった。</li> </ul> <p>中野</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・市町村においても特定の施設のみに限定した案内はしていないと考えているが、施設側から自施設内の余暇活動で足りているとして断られる場合もある。</li> <li>・また、市町村によっては送迎時間帯や送迎方法の都合によって施設の方から断られるケースもあると聞いている。</li> </ul> <p>岡田委員</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大分大学でも情報発信は幅広くしようとしているが、周知した数に対して反応は少なくリピーター中心になっている。より効果的な広報の工夫が必要。</li> </ul> <p>(2) 事務局より提案：令和8年度事業の方向性について</p>
14 : 50		

14 : 55	<p>馬場委員</p> <p>中野</p> <p>馬場委員</p> <p>隅田委員</p> <p>中野</p> <p>岡田委員</p> <p>&lt;協議&gt;</p> <p>黒木総括</p>	<p>○新たな取り組み18市町村の実態調査について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・18市町村の実態調査は、教育のみでなく福祉分野も含めるのか。</li> <li>・市町村が自主的に実施している講座についても、推進の呼びかけを行うのか。</li> </ul> <p>・教育及び福祉（障がい福祉課）の両側面から調査を実施予定。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自主的な講座についても積極的に実施してもらえよう声かけを行う。</li> <li>・未実施地域には、出前講座等の支援を行う考え。</li> </ul> <p>・自主的な講座に対する支援についてもお願いしたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実態調査は、生涯学習の観点から見る場合、レクリエーション等も含め幅広い分野の取り組みがでてくるため、把握してほしい。</li> </ul> <p>○実態調査について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実態調査の結果をどのように活用するのか。</li> <li>・市町村だけでなく、団体やあすぴあ等の講座等も広い意味では「学びの場」として捉えられるため、情報を集約してもらえればありがたい。</li> </ul> <p>・第一の目的はまず実態把握。事業開始から3年間の広がりを確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・調査結果を踏まえ、未実施・未充実地域へ働きかけ、事業拡大を図る。</li> <li>・由布市の公民館講座では障がい者芸術文化支援センターからの講師紹介があったという話も聞いているため、今後も関係団体の紹介、取り組み事例の共有、講師情報の提供を行いながら、地域の取組を支援していきたい。</li> </ul> <p>・学びの機会としてさまざまな団体の多様な取組を把握することが望ましい。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・プログラムには障がい者のみ対象、当事者中心で他者参加可、障がいの有無を問わないものなど幅があることを整理すると良い。</li> <li>・他機関との連携事例も収集すれば参考になる。</li> <li>・ピクセルボール、バスツアーなどインクルーシブな学びの可能性を感じている。</li> <li>・調査では多様な取り組みのバリエーションを把握できるよう配慮してほしい。</li> </ul> <p>(1) グループ協議</p> <p>(2) 全体会</p> <p>第1グループ テーマ「魅力を高めるプログラムづくり（青少年の家ワンデイキャンプの参加者を増やすためには）」について</p> <p>参加が伸び悩んでいる要因として、交通面の課題やプログラム内容の妥当性、広報の在り方等が挙げられた。</p> <p>チラシについては、文字量が多く、特に資料14は見づらいのではないかとの意見があった。内容を簡潔にまとめることや、イラストを活用するなど、視覚的に分かりやすくする工夫が必要であるとの発言があった。</p> <p>また、施設に足を運びにくい現状を踏まえ、まずは職員等が集まりやすい場所</p>
---------	---	--

大渡

ヘアウトリーチを行い、香々地・九重それぞれの特色あるプログラムを体験してもらう機会を設けてはどうかとの意見があった。その場で現地での体験内容を紹介し、次回の来所につなげる仕組みを検討すべきとの発言があった。現在は施設単位での参加が中心であるが、個人参加へと広げていく可能性についても意見が出された。

さらに、各地域で既に実施している内容と同様のプログラムでは参加増は見込みにくいいため、各施設の特色を活かしたプログラムを打ち出す必要があるとの意見があった。継続して参加したくなる内容の工夫も必要であるとの発言があった。

最後に、施設職員と社会教育関係職員との関係づくり、人と人とのつながりが重要であるとの意見があった。

第2グループ テーマ「生徒と保護者が社会につながる出前講座のあり方」

今年度実施した特別支援学校での出前講座について、保護者の参加が十分ではなかったことが課題として挙げられた。保護者に参加してもらうための方策や、卒業後の余暇活動への理解を深め参加意欲を高める方法について意見交換を行った。

まず、保護者のニーズを把握することが必要であるとの意見が出された。上手くいっている講座の要因を分析し、成果と課題を整理すること、併せて保護者アンケートを実施し、意見を丁寧に把握することが重要であるとの確認があった。

開催日程についても課題が挙げられた。現在は平日に設定されているが、保護者の就労状況を踏まえると土日の開催も検討すべきではないかとの意見があった。また、開催時期が12月から2月となっているが、1月から2月は3年生の現場実習や就職活動と重なるため、時期の再検討が必要ではないかとの指摘があった。

次に、出前講座単体では参加が伸びにくい可能性があるため、授業参観等の学校行事と組み合わせて実施する方法が提案された。

周知方法については、文章中心の案内に加え、活動写真や動画を活用し、QRコード等により閲覧できるようにするなど、具体的な活動内容が伝わる工夫が必要であるとの意見があった。

最後に、保護者と子ども双方が興味を持てる内容であることが重要であるとの意見が出された。子どもが強い関心を示すテーマ設定とすることで、保護者の参加にもつながるのではないかとの考えが示された。

馬場委員

第3グループ テーマ「より効果的な周知方法とより参加しやすくなる手立て」について

現状整理と今後の展開を中心に協議を行った。

まず、OUCについては、全特別支援学校高等部3年生の生徒及び教職員に配布していることが確認された。特別支援学校への周知は実施されており、市町村の公民館講座については各市町村に委ねている状況である。また、1月24日のコンファレンスにおいては、全市町村の社会教育課等の行政担当窓口及び特別支

	<p>&lt;開会行事&gt; 黒木総括</p>	<p>援学校高等部生徒・教職員にチラシを配布し、自立支援協議会経由でも周知を行っていることが共有された。</p> <p>効果的な周知方法については、小規模な組織では情報が行き渡りやすい一方、組織が大きくなると情報が入口や上部で止まり、必要な対象に届きにくいという課題があるとの意見が出された。誰に届けるべき情報なのかを明確にし、対象を絞った広報の工夫が必要であるとの整理がなされた。</p> <p>また、チラシやメールでの周知にとどまらず、電話や訪問等による直接的な働きかけ（もう一声）が必要であるとの意見があった。場合によっては、動員の必要もあるのかもしれない。あわせて、市町村の行事申込冊子等、既存の仕組みに掲載してもらう方法も有効ではないかとの提案があった。</p> <p>さらに、周知対象が特別支援学校に偏っている現状があるため、一般校の支援学級や要支援家庭への周知についても今後検討が必要であるとの意見が出された。</p> <p>閉会の言葉</p>
--	------------------------------	---

#### <意見・提案のまとめ>

- ・参加しやすさの観点から、時間設定や内容構成を見直すとともに、学びと相談を組み合わせるなど柔軟な実施形態を検討する必要がある。
- ・保護者や家族も参加しやすい環境づくりを進め、参加者同士のつながりやネットワーク形成につながる工夫が求められる。
- ・広報については、対象を明確にし、写真・動画・QRコードの活用や直接的な働きかけ等により、具体的な活動内容が伝わる工夫が必要である。
- ・教育と福祉の両面から実態を把握し、未実施地域への働きかけや自主的な取組への支援を通して、事業の広がりを図ることが重要である。
- ・関係機関・大学等との連携を強化し、講師情報や取組事例の共有を進めるとともに、継続的な実施による居場所機能の充実が望まれる。